

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
 領域開拓プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
 評価用研究成果報告書

課題		嗜好品の文化的・社会的意味			
研究テーマ名		「嗜好品」とは何か？ －嗜好品に関する学際的研究と文献データベース構築を通して			
研究代表者	所属機関	立命館大学			
	部局	食マネジメント学部			
	役職	教授	氏名	松原 豊彦	
委託研究費		単位：千円			
平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度	令和2年度		
1,950	5,200	3,932	2,080		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、研究成果やその波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

「嗜好品」とは「個人の好みを満足させ、味覚・嗅覚・視覚に快感を与える飲食物の総称」と一般的に言われている。しかしその実体は世界の諸地域においても、時代の推移においても非常に多様であり、一概に「嗜好品」とは何かを定義づけられない現状であった。

そこで本研究においては「嗜好品」とは何か、その地域的偏差や時代的な変遷について、人文科学、社会科学、自然科学の三分野から学際的・総合的に明らかにしていくことを目的にした。

研究内容としては、①フード・カルチャー、②フード・マネジメント、③フード・テクノロジーの3つのグループからアプローチを行うとともに、嗜好品に関する文献データを検索・収集し他に類を見ない「嗜好品の学術的データベース」構築をめざすことで、従前の嗜好品研究を把握するとともに、新しい嗜好品研究の展開を見通すこととした。

具体的な方法およびその成果、得られた知見としては、大きく次の4点が挙げられる。

- 1) 本学食マネジメント学部の研究者を中心に、発表・討議を行う研究会「立命館大学嗜好品研究会」を組織してこれまでに5回の研究会を開催し、プラットフォームを構築・確立した。
- 2) 既存の「食」に関するデータをもつ博物館等の情報、本学図書館の収蔵図書のほか、新たに入手した資料など、8000点以上の資料について情報収集しデータ入力を行った。
- 3) 嗜好品に関する国内・海外での研究調査を行った。とりわけ海外でのインタビュー調査からは、嗜好の要素は文化的な価値観を内包しているため、データベース制作にあたっては飲食物そのものの情報のみならず、周辺の情報も網羅する必要があることが示唆された。
- 4) 上記の研究活動を行っていく中で、嗜好品を従来の物質としてのタキシノミーで明確に分類することは困難だという認識に至った。今後は「ウェルビーイングに貢献する品物の機能」としての嗜好という側面から嗜好品を考察し、嗜好品の新たな機能や概念を明らかにする予定である。

コロナ禍において新しい社会の在り方が出現することが予想される。この状況下で「嗜好品」がどのような心理的、社会的意味を担っていくのか、得られた知見からさらに考察を進めていきたい。